

「防災・減災」を社会の主流へ

横浜市会議員 竹内やすひろ

近年、日本列島が地震活動期に入ったと指摘されました。水害の激甚化など地球温暖化の影響も懸念される中、自然災害は「人間の安全保障」への脅威となっています。この視点から質疑に立ち今こそ、「防災・減災」を「政治の主流」に位置付け、防災意識を高める教育を含めて「社会の主流」に

押し上げる必要があると思います。

10月26日まで開催された第3回横浜市定例会

では、決算特別委員会の消防局審査においても

体験施設の充実を

なことは何か」を考えるきっかけとなり、次に備えることに繋がります。

も重ね、第2回横浜市定例会の一般質問でも取り上げた折も、市長からは「今後、バーチャルリアリティ（VR）の導入に向けて取り組む」との答弁がありました。

消防局審査を経て、この秋から、VR体験が横浜市民防災センターで試

行となりました。質疑では、火災に被災された方への支援、消防団の充実等も取り上げました。詳細は、横浜市会HPで動画等も配信されています。

VRとは、ヘッドセットをつけて「仮想現実」の災害をリアル体験できる仕組みです。地震・津波・風水害等、現実味の

ある体験ができます。横浜市は「横浜市民防災センター」を開設し、市民への防災意識の普及啓発や災害の疑似体験を行っています。更なる体験施設の充実に向けて私自身



横浜市会議員

竹内 やすひろ

- 公明党神奈川県本部幹事長代理
- 市会運営委員会副委員長
- 水道・交通委員会
- 防災士

事務所 神奈川区大口通127-16 コスガビルF
☎045-716-6822

も東京等の他施設へ視察



災害のVR体験